



## 令和6年度 第2回 小郡市学力向上推進委員会について

【説明】「全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の分析結果の活用について」  
小郡市教育委員会 指導主事 岡嶋

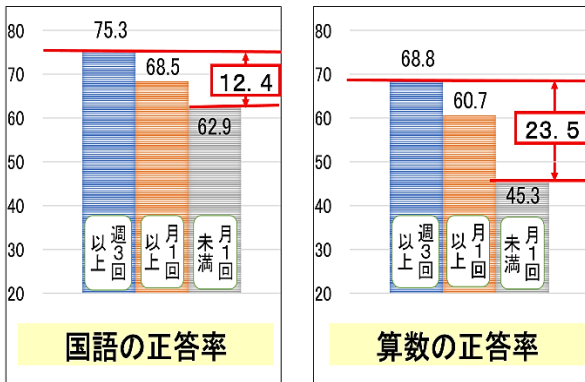
### 【主体的・対話的で深い学び】と【学力】

児童生徒質問紙と正答率とのクロス分析の結果、次のような子どもの学力が高い傾向にありました

- ◎ 自分で考え、自分から取り組んでいる子ども・・・《課題意識》
- ◎ 自分の考えがうまく伝わるように工夫している子ども・・・《アウトプット》
- ◎ 学んだことを生かし、自分の考えをまとめる活動を行う子ども・・・《振り返り》

### 【ICT活用】と【学力】の関係性

質問(27) 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか



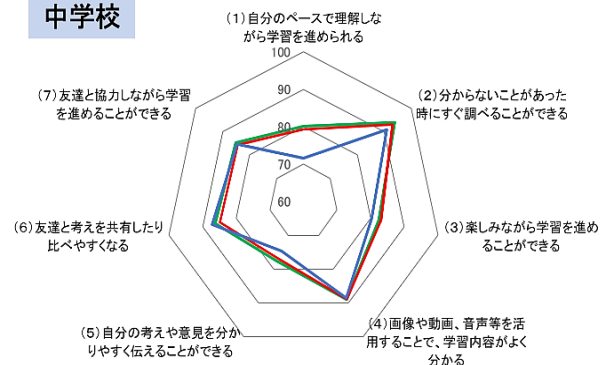
市小学校 【ICT活用】と【学力】は関係性がある

### 小郡市のICT活用の課題

タブレット等のICT機器の有用感について(肯定回答)

—全国 —福岡 —小郡市

中学校



生徒のICT活用の有用感が低い 特に(1)(5)

### ★★★ ICTを活用した授業改善のポイント★★★

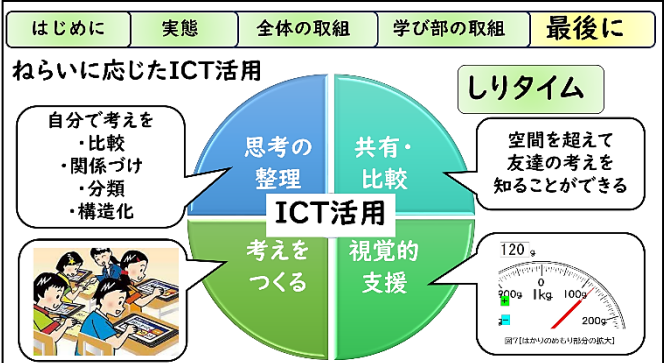
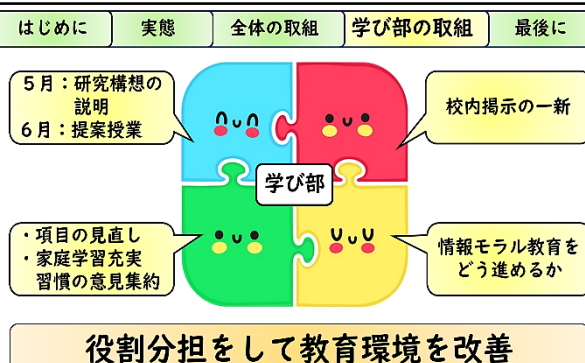
上のような関係性や課題分析を基に、**子どもが主体的にICTを活用し**、子ども主体の

- 『課題意識』 ● 『アウトプット』 ● 『振り返り』 を重視した日常の授業改善が大切です。

### 【実践報告】「学力向上推進に向けた校内の組織的取組について」

小郡市立東野小学校 研究主任 大山 千裕 先生

〔報告の概要〕 東野小学校では役割分担を明確にして組織的に学力向上を目指しています。また、授業ではねらいに応じたICT活用を授業の展開段階に位置付けています。



## 【 グループ協議 】

ICTを効果的に活用した『主体的・対話的で深い学び』の浸透徹底を図る取組について

〔協議の概要〕 各学校の「ICTの活用」と「主体的・対話的で深い学びの姿」の現状についての協議シートを分析し、中学校区グループで協議を深め、全体で意見を共有しました。



【課題分析をする様子】



【グループ協議の様子】

## 【 協議を踏まえた推進委員の意見（抜粋） 】

- ・子どもの意識は、「資料を見る」というレベルではなく、今では、「自分の意志で使うこと」を大事にしているのだと思う。（大原中）
- ・子どもが自分の考えを相手に分かるように伝える「アウトプット」ができるようにしていきたい。（小郡小）
- ・アウトプットが低いことが顕著。その要因が意欲なのか技能なのかを分析し、共有していきたい。（三国中）
- ・今後は、ICTを「子どもが使う」ことを意識したい。（御原小）
- ・「新しい授業スタイルにチャレンジ」し、「子どもに委ねる」ことをどこまでできるか、探していきたい。（東野小）
- ・「先生が使わせている」「先生が引っ張ってきた」というのが本校の実態。私たちは「答えを出すのではなく、導く存在である」（味坂小）

## 【 参加者のアンケートより（抜粋） 】

- ・ICTを協働・共同で活用し、全体へアウトプットする機会を設定していきたいです。（立石小）
- ・本校はまだ一斉指導の授業形態が主になっています。個別最適な学びを充実させていくために、子どもに合った教え方、教材、学習時間になるようにしていきたいと思いました。（大原小）
- ・子どもが主役の授業をつくっていかないといけないなと思いました。（小郡中）
- ・子どもが主語になる授業・ICT活用を職員で共有する場を充実させていきたいです。（三国小）
- ・子どもを主体とした授業づくりのツールとしてICTを活用していきたいです。（のぞみが丘小）
- ・本校が研究している「スタディログ」のより効果的な活用を模索していきたいです。（宝城中）
- ・研究部の中で、学力向上プランの修正、ICTを使った個別学習、アウトプットの方法、自分の考えをまとめる活動をどのように仕組むか等について検討していきたいと思えます。（立石中）

## 一人ひとりの子どもに『未来に向かい 未来を拓く力』を

小郡市教育長 秋永

今年度の「全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査」で、私達がまず、心に留めておかなければならない数値があります。「学校に行くのは楽しいと思えますか？」の問いに対して否定的回答をした子の割合は〔小学校13.4%・中学校19.3%〕、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか？」の問いへの否定的回答は〔小学校8.4%・中学校15.8%〕という結果でした。「楽しい・幸せ」と感じている子がいる一方で、「不安や悩み」を抱え、悲しい思いをしている子がいます。背景として、学習のこと、友達のこと、家庭でのこと等、それぞれにきつい状況があるのでしょう。私達はまず、そこに目を向け寄り添わなければなりません。

今回、学力向上推進委員会、そして園長・校長連絡会で東野小学校に取組を発表して頂きました。その中で「学力の厳しい子ども達一人ひとりの名前をリストアップし全職員でかかわる体制を講じます。そして、『学びを楽しむ』授業をめざします。」というご報告がありました。

こうした取組に子ども達は救われると思えます。様々な事情を抱える子ども達の思いや願いを慮りながら、真の意味で子どもが主語の『個別最適で協働的な学び』をめざし、どの子も自分のよさを輝かせて幸せに生きていくことのできる力を市全体で育てていきたいと思えます。